

北海道に夜間中学をつくる会

## 2012 年度第 6 回事務局会議まとめ

札幌市男女参画センターエルプラザ 2 階会議コーナー  
出席者（敬称略）：工藤代表、泉事務局長、飯塚、遠藤、  
工藤（朱）、白倉、森川

### 議題

1. 道議会、札幌市議会提出の意見書について
2. 第 58 回全国間中学校研究大会参加報告
3. 会報「きぼう No. 9」発行について
4. 北海道自主夜間中学フォーラム「記録誌」発行とその他残務
5. その他

### 話し合い

1. について

「義務教育等学習機会の充実に関する法整備を求める意見書」  
は、道議会では、12 月 21 日（金）文教委員会で採決され、25 日  
（火）本会議最終日に全員一致で採決される予定。

われわれが道議会全会派に要望に行ったさい、意見書原案は道  
教委職員が各会派に周知しており、内容に理解を示してくれた。

文教委員長が突然代わったため、新委員長に夜間中学関係の資料  
を渡し、自民党政審会長松浦議員にこれまでの経緯をお話した。

札幌市議会では、幹事長会議において、市民ネット案、自民党

案（道議会意見書に近似）、民主党案（市民ネット案から「全都道府県・政令指定都市に公立夜間中学の開設」の文言を削ったもの）が出され、意見書の検討がされた。12月13日（木）本会議最終日に全委員一致で採決される予定。

この意見書に全会派が賛成の態度を示された。

わたしたちが全会派を回っても札幌遠友塾の活動に理解を示してくれ、共産党は意見書標題に「夜間中学」の文言をぜひ入れて欲しいとの提案もあった。

今回、意見書採決のため道議会・札幌市議会の全会派を回ったことは、これから夜間中学への支援も要望していく上で、これまでもそうだが、超党派議員の理解が前提となって進めていけることになるだろう。また、行政との交渉においても、この意見書の趣旨からさらに要望をだしていくことになるだろう。

全国夜間中学校研究大会でも報告されたが、いま立法化を進めている「義務教育等学習機会充実法案」に向けて、公立夜間中学や自主夜間中学の所在自治体で、このような意見書を提出するような活動も必要ではないだろうか。

道議会・札幌市議会で意見書が採決されたら、来年の第1回定例会にあわせて、両議会全会派にお礼の挨拶回りをしたい。

## 2. について

参加者3名（泉・遠藤・森川各氏）より参加の感想、報告をもらう。

- ・公立と自主との夜間中学の格差に驚く。（見学校はエレベーターが設置されていた）

- ・東京の公立夜間中学校は新渡日の人たちが多く、そこで行なわれていた日本語授業のカリキュラムは優れていた。

- ・分科会などが多くゆっくり交流するには時間が無い。

（費用との関係があるが、北海道から一泊二日で行くには日程がきつい）

- ・公立夜間中学校に「特別支援学級」が設けられたと報告。

- ・公立夜間中学校では生徒数の減少から学校の統廃合が進んでいる。

- ・本大会の後援に、北海道教育委員会がなったことを評価していた。

「義務教育等学習機会充実法案」の立法化に向けた具体的な今後の取り組みはについて、国会議員に積極的に働きかけを行なう程度に留まっている。今大会では、このことがあまり話し合われなかった。

全国夜間中学校研究会が各教育委員会に要望書を出し、札幌市教育委員会（北原教育長）の回答抜粋。

「公立中学校夜間学級の設置につきましては、今後、日本弁護士連合会の『意見書』に対する国並びに北海道の動向等に留意するとともに、戦中・戦後の混乱期に学校で学ぶ機会がなかった方については、申し出があれば個々の小中学校への受け入れについて相談を受けるほか、北海道との連携を図るなど、引き続き対応について研究してまいりたいと考えております。」

### 3. について

「きぼう No.9」の発行は、12月15日に行なう。600部印刷。

### 4. について

記録誌の文字起こし、フリガナ振りの作業はすべて終了。あとは、釧路くるかいの添田さんが、ワークショップでの発表をまとめる。年末、九州の実家に戻って作業するとの連絡あり。

2月末までに完成させる。

### 5. について

次回の事務局会議予定 1月17日（木）